



vol.11 夢見る未来特集！

\*2025年7月発行 \*企画・制作・発行・デザイン／ 朝トラ「らんまん」顕彰会  
〒789-1201 高知県高岡郡佐川町奥の土居 市川方 kawazumakeruna@bell.ocn.ne.jp

高知県の生物標本は、いま近い将来、高知県産の自然史科学標本、特に生物標本の行先を模索する事態がやってくる。これらの多くは個人収集標本で、現在の高知県の生物標本保管施設と体制の状況からみると、高知県外へ流出する可能性が極めて高いです。そこで私も参加しているこうちミュージアムネットワークでは、現在高知県内にどのような自然史科学標本があるのか、その量や保管管理の状況はどうなっているのか、今後どの程度の期間現状を維持できるのかの調査が令和3年度に行われました。

設備を得るための聞き取り調査が、標本を保管するために必要な設備を有し、標本を適切に管理で

きる人材を配置した県立自然史博物館的な施設を設置した場合、「博物館活動に協力する意思があるか？」についても、お聞きしました。調査の結果、高知県には様々な生物標本を所有の個人・団体が69件ありました。その方々が所有の標本を、生物分野別に整理してみたところ、そのコレクション数は132件(約235,000点)あることが分かりました(写真1、4)。所有者の方に現状のまま維持できる期間について尋ねると、10年以上維持できるという回答が48件(約16万点)、10年以内に維持できなくなるとの回答が11件(7万点以上)、さらに5年以内にならな

るかわからないとの回答が6件ありました。維持できなく理由は、所有者の高齢化、保管場所の維持が困難、容器の劣化、適切な保管管理知識を有する人材不足等でした。「博物館活動に協力する意思があるか？」については、個人所有の人々の多くが、高知県に収蔵施設を有する自然史博物館ができることを希望されていました。そして、「高知県が県立自然史博物館的な施設を設置した場合の協力の意思の有無」については、多様な生物分野の標本が寄贈、寄託および随時貸出などで多くの方から協力が見込まれることもわかりました。

写真4



四国随一の哺乳類骨格標本コレクション

写真3



約50年間にわたって  
室戸岬周辺で収集された  
チョウ類標本コレクション

写真2

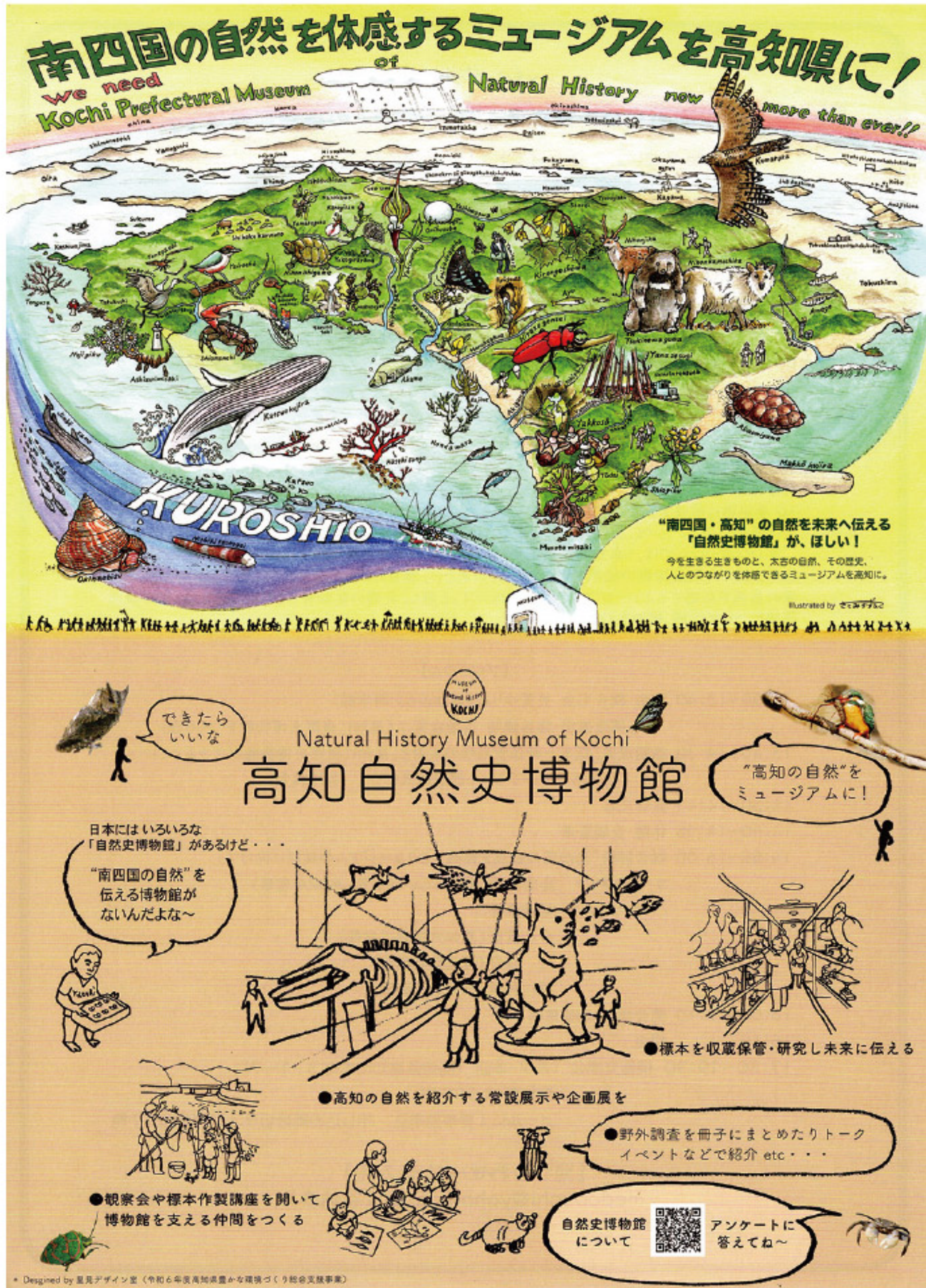


高知県沿岸で採集された  
日本有数のサング標本コレクション

写真1



足摺岬沖で採集された甲殻類と貝類の標本



高知県に必要と考える自然史博物館の具体的なイメージ資料

高知県に県立自然史博物館ができることを目指して  
谷地森秀二（高知に自然史博物館をつくる会）



生誕163周年 牧野富太郎博士生誕祭  
4月19日20日24日、佐川町牧野公園で「牧野富太郎博士生誕祭」が開催されました。19日・20日には各種イベント、24日にはお祭り＆公園散策等



高知県佐川町の特産品や素材をふんだんに使った、こだわりのかき氷が全 29 種類！町内 11 店舗が、それぞれの個性とアイデアを込めて仕上げた「ここでしか食べられないかき氷」が大集合！



豊かな自然、明るい未来を、  
サプライチェーン・ロジスティクスで



郵船ロジスティクスグループは、持続可能な未来へ向けて、地域の皆さまとともに歩みます

[https://www.yusen-logistics.com/jp\\_ja/](https://www.yusen-logistics.com/jp_ja/)



料を作成しました。そして作成したイメージ資料を用いて、高知県の自然の変遷の証拠である標本を残すためには、このような施設が必要であることを伝え、「高知県にこうした施設を作り上げる必要があるのか?」、「作ったら活用するか?」などの意向を把握するアンケート調査を令和7年1月1日より開始しました。標本保管場所としては、旧須崎高等学校の教室が利用できそうか8、12月にかけて教室内に温湿度計を設置し、標本保管に適正な環境であるかを調査しました。

アンケート調査では、4月30日の時点で、3,990件以上の回答を得ました。このうち、「高知県に県立自然史博物館ができればいい」と思う」との回答は3233件(81%)で、多くの方に高知県立自然史博物館設立に賛同してもらえることが分かりました。アンケート調査は現在も継続しています。高知県民からの回答数が10,000件となった時点もしくは本年末時点で最終集計を行い、高知県民の民意として高知県に示すつもりです。旧須崎高等学校の教室で行った環境調査では、現状のままでは標本保管に不適でしたが、光と熱を遮断するために窓へ銀マットなどを張り付けたり、湿度管理のために除湿器を導入したりすれば、活用できることが分かりました。この情報はすでに高知県に提供しました。引き続き標本保管場所として廃校の利用を模索しています。

**高知県に県立自然史博物館ができることを目指して**

今年度は、高知県民へ向けて「高知県に自然史博物館をつくる重要性」を呼びかける巡回パネル展を、以下の会場と日程で開催します。

## 巡回パネル展

■のいち動物公園  
9月20日～10月13日

■室戸世界ジオパークセンター  
11月3日～11月17日

■高知みらい科学館  
11月11日～12月2日

■道の駅「ビオス大方」  
11月18日～12月1日

■足摺宇和海国立公園  
竜串ビジターセンター  
1月17日～1月31日

■高知県庁1階ロビー(調整中)

パネル展で紹介する内容は、「高知の自然史資料の現状」、「高知県が行っている自然史科学標本に対する取り組み紹介」、「標本の散逸・消滅を避けるために一時保管場所構築(廃校校舎利用を模索)」、「アンケート「高知県に自然史博物館ができることについて、どうですか?」の紹介」、「こんな自然史博物館ができればいい」提案」で構成します。

また、「高知県内に自然史博物館をつくる意義」について有識者と県民とで意見の交換と情報の共有化をおこなうシンポジウムを、2026年1月10日13時から16時30分にかけて、オーテピア4階ホールで開催します。

多くの方と意見を交わし、力を合わせて高知に県立自然史博物館設立を目指します。

## 昨年に引き続き、マキノジンが世界に認められました！

IWSC(インターナショナル・ワイン・アンド・スピリッツ・コンペティション)でシルバー賞&ブロンズ賞を受賞、おめでとうございます！



今年「マキノジンプレミアム土佐文旦フレーバー」がシルバー賞を、「マキノジンベアシック」はブロンズ賞をそれぞれ受賞！IWSC2025の審査員のテイステイングノートでは「マキノジンプレミアム土佐文旦フレーバーは、フローラルシトラス、ドライフルーツ、素朴な香り。味わいは心地よい甘さを提供し、鮮やかな柑橘類とハーブのニュアンス、ジュニパーのタッチが特徴です。香ばしく余韻のあるフィニッシュが、美しく複雑な体験を生み出しています」とのこと。マキノジンベアシックは、「松とカッシアの樹皮の複雑な香りが、コリアンダー、柑橘類、余韻の残るスパイスの丸みを帯びた味わいに導きます」と評されました。

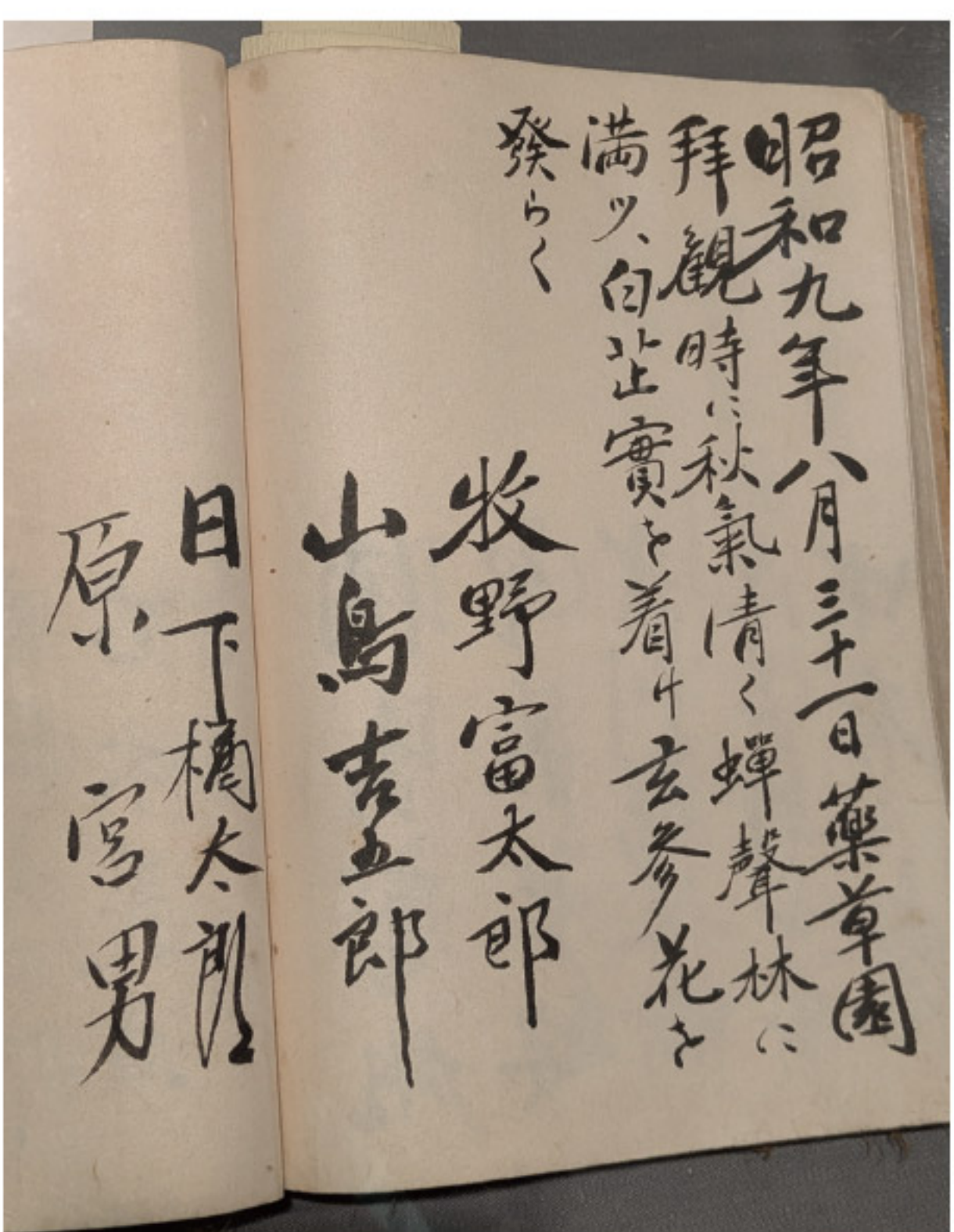
## 今年も会えました！ヒノキ林にプクプクの黄色い絨毯。絶滅危惧種だったガンセキランが、地元住民の手により約2千株の群生に！

佐川町牧野公園。牧野富太郎博士のお墓の奥には見頃を過ぎたバイカオウレンの森が広がっています。その森を見下ろすように階段を登って行くと、ヒノキ林に見事なガンセキランの群生が！(今年の見頃は5月中旬～6月上旬でした)公園の植物を手入れしてくださっている「牧野公園はなもりC・LOVE(くらぶ)」の皆さんのお陰で、今年もゲストの感嘆の声を聞くことができました！



ガンセキランの群生 (佐川町牧野公園)

# 探訪 牧野博士の歩いた道 日本最古の私設薬用植物園は薬草のタイムカプセル



森野旧薬園芳名帳

史跡・森野旧薬園は、奈良県東部、古代から「阿騎野(あきの)」と呼ばれる宮廷の薬圃の地でもあった宇陀市大宇陀にあります。近鉄大阪線榛原駅からバスで約20分、標高473mの古城山の麓、宇陀市松山重要伝統的建造物群保存地区にある森野家の裏山に日本最古の私設薬用植物園は息づいています。



森野旧薬園入口

大阪大学総合学術博物館蔵書『森野旧薬園と松山本草 薬草のタイムカプセル』高橋京子・森野薫子著(2021)によると、同園は「享保14年(1729)」に森野初代藤助通員(号・賽郭)により創始され、漢薬種の育苗・栽培・生産など、幕府が展開した薬草政策の一翼を担いました。当時、八代將軍吉宗のもと

で展開された享保改革期の薬草政策は、財政再建・漢薬の安定供給・疫病対策を達成する国家プロジェクトで、国産生薬の開発・育成・実践が有効に機能した「薬園でした。『増補改訂日本薬園史の研究』上田三平著、三浦三郎編(渡辺書店1972年)で森野藤助(1690～1767)を詳しくみると、「家は世々農を業とし傍ら葛粉の製造に従事し葛屋として聞えていた。藤助は幼少の頃から薬草の類を好み屋敷内にこれを栽培していたが、享保十四年四月幕府の御薬草御用植村佐平次が採薬のため大和に來た時、代官鈴木小衛門の推挙によって薬草見習として大和各地の案内に努めた」とあります。

幕府の採薬使に対しては一領内ごとに5人の案内者を見習いとして出す例があり、藤助がその一人に選ばれたわけ



テンダイウヤク

です。享保14年4月4日の室生山の見分から始まり7月26日に解散した約4ヶ月間の植村佐平次との採薬随行で藤助は認められ、ニッケイ、ニンジンボク、カンゾウ、サンシユ、ナンキンハゼ、テンダイウヤクの6種類の生薬を幕府より拝領。それらを自宅裏の丘に植え付け、かつ採薬中各地で見覚えた薬草類を漸次栽培したのがこの薬園の起源です。



トウキ

明治以降の近代化で伝統的な和漢薬が衰退し、各地の薬園がなくなっていくなかでも、同園は森野家や多くの支持者の努力により維持され大正15年には国の史跡指定を受けました。その支持者のなかには、牧野博士が大正5年(1916)に創刊した「植物研究雑誌」の発行を大正15年(1926)から引き受けた津村順天堂創業者津村重舎氏(宇陀市出身)もいたことが今回の訪問で分かりました。



ハナノキ 幕府下付 300 年のサンシユ



キクバオウレン



カザグルマ



リンドウ

幕府から下付され約300年を経たサンシユの古木も健在、ハナノキ(ハナカエデ)という大木もありました。



旧葛工房に展示されている葛の根

■森野家のあゆみと学際的交流、工房にみる製造技術／水飛法と寒晒しについての貴重な資料を展示。森野賽郭が薬園内の植物を写生した精緻な原色植物画「松山本草」(レプリカ)もあり、牧野博士の先達・森野賽郭の本草家としての力量を見ることができました。

驚いたのは大正8年10月20日と昭和9年8月31日に牧野博士が記載した森野旧薬園芳名帳が展示されていたことです。西宮高等女学校長・山鳥吉五郎等と訪れた昭和9年の記帳で牧野博士は自身の名前の前に「薬草園拝観時に秋気清く蟬聲林に満ツ、白芷實を着け玄参花を發らく」と記しています。生薬名白芷(ビャクシ)の和名はヨロイグサ、同じく玄参(ゲンジン)はゴマノハグサであるようです。和名でなく生薬名を書いているところが面白いですね。同薬園の植物管理を担当する原野悦良氏(昭和7年生)に会うことができました。



原野悦良氏(左)と筆者

ただ今、マキノジン新商品 新高梨フレーバーを造りたい] のクラウドファンディングに挑戦中です。これでゴールド賞を狙います。応援、ご支援よろしく願います！

BAR Craps Owner Bartender 塩田 貴志



■詳細・ご支援方法はこちらのQRコードからご覧いただけます。よろしく願ひ申し上げます。目標金額：300万円 支援募集期間 7月31日まで



森野旧薬園内

なお、今回の探訪では、宇陀市観光ボランティアガイドの会の紙谷尚永様に大変お世話になります、万葉ロマンあふれる薬草の町・大宇陀を堪能できました。ほんとうに有難うございました。(市川浩司)